平成20年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール大会

第61回全国高等学校バスケットボール選手権大会

彩夏到来 08 埼玉総体

平成20年7月30日(水)　　二回戦

Ⅰ コート　第2試合　　本庄総合公園体育館 (シルクドーム)

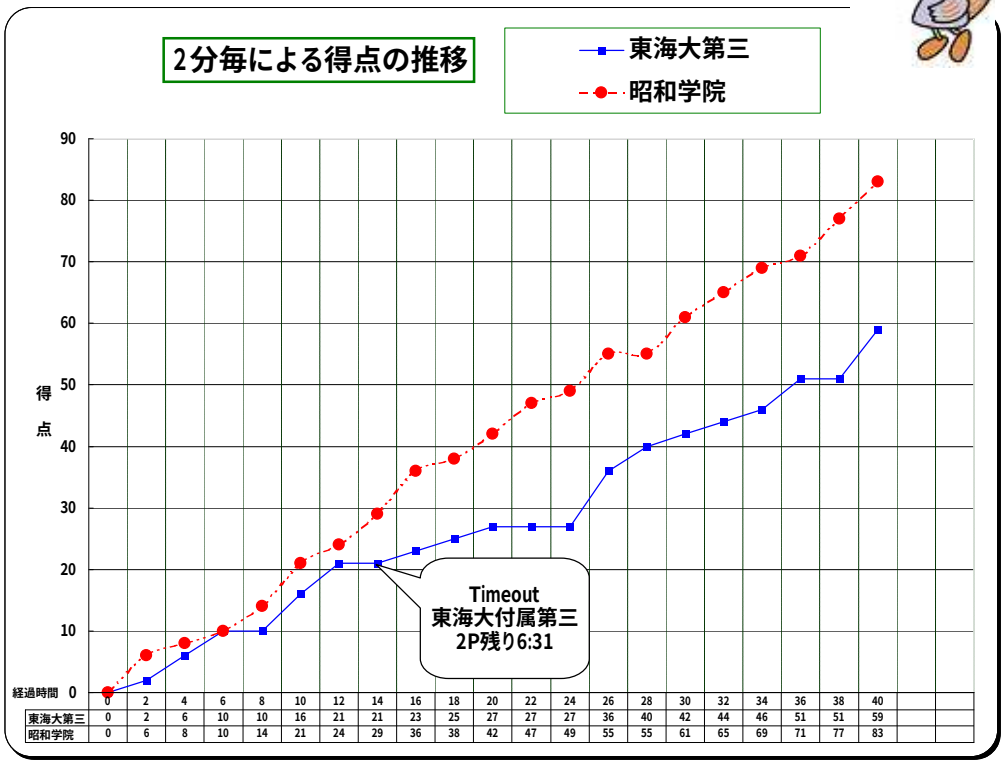
チームA			チームB
東海大第三 長 野	59	16 － 21 11 － 21 15 － 19 17 － 22 －	83	昭和学院 千 葉

東海大第三

番号	氏名	出場	得点	3P 成功	3P 試行	2P 成功	2P 試行	FT 成功	FT 試行	反則	リバウンド OF	リバウンド DF	TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
4	松岡 靖香	X	4	0	0	2	2	0	0	2	0	0	1	2	1	0	25
5	岩原 茉紀	X	4	0	3	2	8	0	0	1	2	2	2	2	0	0	19
6	丸山 詩恵	X	8	0	0	4	10	0	0	1	4	2	2	2	0	0	24
7	大輪 紗希	X	6	0	0	3	6	0	0	3	0	2	1	2	0	0	25
8	上原 ともよ	X	6	1	4	1	4	1	2	1	0	0	0	2	1	0	23
9	臼井 奈津	／	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
10	宮坂 侑里	／	4	0	0	2	3	0	0	0	0	2	2	1	0	0	9
11	小口 由希子	／	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
12	飯島 早紀	／	11	1	3	4	14	0	0	3	2	2	3	3	2	0	26
13	島崎 未来	／	6	2	3	0	3	0	0	1	2	4	4	2	4	0	16
14	久保田 早紀	／	7	1	3	2	4	0	0	2	1	4	6	0	1	0	25
15	鈴木 襟香	／	3	1	1	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
コーチ	有賀 正秋									0	5	2					
出場:×は先発、／は出場			59	6	17	20	56	1	2	15	17	20	22	16	10	0	200
			確率	35.3%		35.7%		50.0%			計	37					

昭和学院

番号	氏名	出場	得点	3P 成功	3P 試行	2P 成功	2P 試行	FT 成功	FT 試行	反則	リバウンド OF	リバウンド DF	TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
4	小林 礼奈	X	5	1	3	1	3	0	0	1	1	6	2	2	6	1	36
5	常田 実咲	／	0	0	0	0	3	0	0	1	0	1	3	1	0	0	22
6	長尾 彩美	／	3	0	0	0	1	3	4	0	0	1	1	0	1	0	4
7	松本貴和レシェル	／	4	0	0	2	2	0	0	1	0	1	1	0	0	1	2
8	元山 夏菜	X	12	0	0	5	10	2	2	0	5	8	5	2	1	6	35
9	北舘 美保	／	21	1	4	9	13	0	0	1	2	1	1	4	1	1	24
10	大河原 晶子	X	24	0	0	10	15	4	5	2	2	8	2	3	2	2	33
11	齋藤 玲奈	／	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
12	鈴木 茉里菜	／	4	0	0	1	3	2	2	0	2	1	1	0	0	0	8
13	眞茅 昴衣子	／	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
14	森戸 理紗	X	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	7
15	望月 陽子	X	10	1	2	3	4	1	2	2	1	0	4	3	4	1	25
コーチ	鈴木 親光									0	1	2	1				
出場:×は先発、／は出場			83	3	10	31	56	12	15	10	15	30	22	15	15	12	200
			確率	30.0%		55.4%		80.0%			計	45					



経過時間	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
東海大第三	0	2	6	10	10	16	21	21	23	25	27	27	27	36	40	42	44	46	51	51	59
昭和学院	0	6	8	10	14	21	24	29	36	38	42	47	49	55	55	61	65	69	71	77	83

戦評

＃１０大河原と怪我から復帰した＃８元山のインサイドプレーが光る昭和学院に対し、堅いディフェンスと抜群の走力を兼ね備える東海第三が戦いを挑む。

第１Ｐ、両者ともハーフコートマンツーマンでスタート。昭和学院は＃８元山、＃１０大河原の力強い１対１で攻めていくのに対し、東海第三は＃４松岡のスピードのあるドリブルでの速攻で応戦し一進一退の攻防となる。昭和学院の高さに対し、東海第三＃６丸山が攻守において果敢に挑むも、終盤２枚のビッグセンターに東海第三が対応できない場面もあり、１６対２１で昭和学院リードで終了。

第２Ｐ、追い上げを図りたい東海第三はスリークォーターからのマンツーマンディフェンスに変えるが、昭和学院はペースを崩さず得点を伸ばしていく。焦りが見え始めた東海第三はオフェンスのリズムが噛み合わず、得点が伸びず、点差が開いていき２７対４２で昭和学院リードで前半終了。

第３Ｐ、昭和学院＃１５望月の安定したボールコントロールにより、昭和学院のペースで後半が始まる。東海第三＃１２飯島、＃１３島崎のスピードあるオフェンスで、パスランプレーが展開されるもシュートに結びつかない場面も見られ、４２対６１昭和学院リードのまま最終Ｐへ。

第４Ｐ、依然勢いの衰えない昭和学院は＃９北舘の速攻等で、更に引き離していく。最後まで持ち前の粘り強いディフェンスとスピードで攻撃する東海第三であったが、総合力に勝った昭和学院が５９対８３で勝利を手にした。

主審	小林 良知	副審	柏原 琢磨	戦評	高瀬 千鶴子 (埼玉県高体連)

3P：スリーポイントシュート、2P：2ポイントシュート、FT：フリースロー、OF：オフェンス、DF：ディフェンス、TO：ターンオーバー、ST：スティール、AS：アシスト、BS：ブロックショット